

特定非営利活動法人

明るいシステム倶楽部 会報5月号

令和4年5月1日

(2022年)

日本という国は、種々の課題を背負いつつも、つくづく暮らすには良い国だと思います。今年もまだコロナ禍の中ですが、春には梅や桜、今頃は藤やツツジと、これからも四季折々に自然を愛でることができ、改めて気持ちが洗われる環境に恵まれています。

ただ、海外に目を転じますと、突如起こったロシアによるウクライナ侵攻は、簡単に収束する気配はなく、泥沼の状態が長期化する可能性もあり、大変由々しきことです。

門外漢といえども一つ思うことは、当面の対応は勿論、これからも更に予測できないことが起こることを常に念頭に置く必要があります。特に、非常時あるいは緊急時に備えて日頃から自分達に何ができるかを真剣に問い直すことが大切かもしれません。

身近に私達ができることは何か。政治面はもとより社会経済面を含め、日本の「元気」をこれ以上低下させないことも大切です。そのためには、お互いにもっと元気に前向きになれる社会へ向けて役立つことを愚直に進めていく、このことも大切な社会的貢献でしょう。

こうした時代にこそ、少しでも人々の心に元気を与えてくれるものがが必要です。

今月は、久方ぶりに「明るいセミナー」を開催いたします。「鮮度」抜群の元気な社員達が運営する、生鮮食料品販売の「八百鮮」という会社をご紹介します。シャッター街と言われて久しい「商店街」に、若き社長の下に一丸となって出店する企業の一端をご披露できたらと思います。どうぞ、奮ってご参加いただけることを願っております。

< 5月の送付物 >

- ① 日本一明るい経済新聞 5月号
- ② ビープラッツプレス 最新号
- ③ **「第56回 明るいセミナー」** ちらし
- ④ 年会費ご納入のお願い (該当者のみ)



福島区の
「のだふじ」

< 5月の活動予定 >

5/7(土) 気楽な ZOOM サロン(18)	当倶楽部会員専用の交流の場です。	20:00~21:30
5/11(水) 第56回 明るいセミナー	大阪産業創造館 4階イベントホール	18:30~21:00
5/18(水) 臨時役員会議(23)	「令和4年度の活動計画」	13:30~14:40
5/18(水) 明るいシステム検討会議(6)	「AKS 認証企業への活動状況」	15:00~16:10
AKS 市民大学 (ZOOM 形式)		
5/12(木) 菊池教室(16)	「感性を育む和学講座」	20:00~21:30
5/25(水) 柴原・松居教室(9)	「みんなで考える明るい職場」	20:00~21:30
5/28(土) 宮崎教室	「愛と善意のことばにも NG ワードが!!」	20:00~21:30

—— 傾聴力も一つの武器ですね。 ——

高村 和義

最近、歩道上や電車内等でも、ひとり言のようにぶつぶつ話す人を時々見かけます。

よく見るとイヤホンを通してスマホ会話をしています。最初の頃は一人で何を喋っているのかと、とても奇異に感じたものです。改めて、スマホの時代なんだなと感じます。

ところで、人が人と話す時、必ず話し手と聞き手ができます。

昨年10月号のコラム欄でも、川上理事がコミュニケーションの話を分かり易く紹介されました。挨拶はコミュニケーションの基本であり、それは挨拶が3つのキャッチボールをしているからだとして紹介されました。言葉、情報、そして三つ目が心のキャッチボールだそうです。

更に、キャッチボールという言葉が示すように、挨拶も会話も一方通行ではなく、双方向のものですよとも強調されていました。改めて、とても心に響く話です。

こうして考えていきますと、話し手が気持ちよく喋っている場合は、聞き手がしっかりとその役割を果たして、会話が一人で成り立っているのではなく双方の合作であるということ。更には、その潤滑油ともいふべき、いわゆる「傾聴」が一役も二役も買っているのではと思う次第です。

それでは、改めて「傾聴」という言葉は、どういう意味なのでしょう。

コトバンクによると、相手の言うことを否定せず、耳も心も傾けて相手の話を「聴く」会話の技術を指し、意識すべきは、相手に共感し信頼していることを示す、社会人基礎力の要素とあります。

会話は、自分の言いたいことをしっかり聞いてもらいたければ、立場を変えて相手の話にも耳を傾ける必要があります。ここにも、「傾聴」の持つ一つの意味があり、お互い様なのです。

「自分もしてほしければ、自分から率先して実行せよ。」ということなのでしょう。

こんなたとえも言われていますね。「人間の口は一つなのに、耳は二つあるのは何故ですか。」

繰り返しになりますが、話し手と聞き手が、会話をスムーズにしたいのであれば、お互いに野球のキャッチボールの如く、話す側は聞く側に受け取りやすいボールを投げ、聞く側も話す側がボールを投げやすいようにグラブを構えてあげる必要があります。こうして、双方が互いに協力し合って常に話しやすい状況を作り上げたいものです。

最近、AKS 明るいシステム大学の「柴原・松居教室」でも、コミュニケーションについて多角的に取り上げられていますが、なかなか奥が深いですね。その中から、ほんの一部紹介します。

1. いいコミュニケーションとは、「相手と同じ目線に立って物事を見ること」。
2. 「自分が正しいと思っていることを伝えるだけでは、うまく行かない」
3. 「自分の常識が相手にとっての常識とは限らない」



また、相手に伝わるためのポイントとして、まずは相手と信頼関係を築き、相手が安心して会話を始められる状況を作ることも強調されていました。

最後に一言。「傾聴力」は注目するだけでなく実践して、大いに会話を楽しみましょう！